

地域おこし協力隊通信

第9回



今月のリポーター：

森山健吾隊員

皆さんこんにちは!!
9回目の協力隊通信担当の森山です。

さて今回は2月15(土)〜3月3日(火)に開催される「ひなまつり」のイベントについて取り上げていきます。

昨年開催された「雛巡り」そのイベントが今年もパワーアップして帰ってきます。昨年に引き続き牛堀商店会、そして今年はやめ一丁目商店会にも協力いただき雛飾りを設置する予定です。その他、市内各所にも雛飾りを設置しスタンプリーを行います。また、期間中の土日には津軽河岸あと広場「石の蔵」

にてワークショップが開催されたり、ひなまつり限定の御朱印があったりと盛り沢山のイベントになっています。

そんなイベントに今年は協力隊も企画の段階から参加させていただいています。佐藤隊員は「いたこを味わう」と題し、潮来産の食材を使用した軽食を期間中の土日に販売する予定です。また私は、使わなくなった物置にしまったままの雛人形を市民の方から集め、メイン会場となる津軽河岸あと広場に飾ろうと考えています。というのも、昨年雛巡りに訪れた方から「使っていない雛人形を活用してほしい」という声を聞いたからです。今回の企画は、そんな声を実現できればとの想いから始まりました。イベント期間中は、「石の蔵」の中だけでなく屋外にも飾り、敷地全体で賑わいを作っていきたいと思っています。皆様のお越しをお待ちしております。

【日時】

2月15日(土)〜

3月3日(火)

午前10時〜午後3時

※休館日：毎週月曜日

【会場】

津軽河岸あと広場

※スタンプリーにつき

ましては、設置場所の

営業日時をご確認のう

えお越しください。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第49回

水郷の魚たち

―第3の外来ナマズ「コウライギギ」

鹿島神宮の要石が巨大ナマズを押さえ込んでいたという伝説を聞くと、昔からナマズは水郷地域に分布していたと感じます。ところが日本各地の遺跡からのナマズの骨の出土状況や史料などに基くと、関東地方のナマズは江戸期に西日本から持ち込まれたというのが最近の定説となっています。

江戸期より前、霞ヶ浦・北浦とその周辺に自然分布するナマズの仲間、清流に生息する小型種のギバチだけでした。その後、江戸期にナマズが、次いで、1980年代に北アメリカ産のチャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)が持ち込まれました。さらに、霞ヶ浦では2008年に第3の外来ナマズ「コウライギギ」が侵入・定着し、昨年も本種が市内の湖内の入り江や水路で採集されています(写真)。

コウライギギはアジア大陸東部原産で、霞ヶ浦には観賞魚の遺棄もしくは養殖個体の逸出によって持ち込まれたと考えられています。ヒゲは4対8本で、尾びれが切れ込み、体側には暗色の地に黄味がかったハシゴ状模様が入ります。愛嬌がある見た目ですが、他の在来生物を捕食したり、胸びれと背びれのトゲによって漁業者がケガをしたりするおそれから、外来生物法に基づいて特定外来生物に指定されており、生息状況の動向が注目を集めています。

さて、最後にちよつとした宣伝です。3月8日(日)に、レイクエコーで、公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究2020」を開催します。霞ヶ浦とその周辺で研究を行う生徒・学生・研究者・市民の成果発表会で、誰でも聞くことができます。皆さまのご来場をお待ちしております。

茨城大学広域水圏環境科学

教育研究センター

加納光樹



市内の水路で採集された
コウライギギ 全長10cm